

レクリエーション教育に関する研究

— 中・高校の保健体育教科書及び、大学に於ける

レクリエーション講義の現状調査 —

東洋大学短期大学 矢 川 律 子
立 教 大 学 石 井 允
東洋大学短期大学 坂 口 正 治

序 論

余暇活動(遊び)の歴史は、ホイジンガーの宗教的諸行事(神遊び)から儒教的倫理観にもとづく、あそび軽視の感情から権田保之助の人間本来の欲求としての娯楽の意味論から、そして戦前に於ける生産のための慰安にいたるまで、それぞれの時代によって余暇のもつ意味が変ってきたといえる。

戦後レクリエーションはアメリカ主導のもとに新しい民主化路線の中で生れ、さまざまな論議を受けながら活動面ではレクリエーション協会の発足、レクリエーション指導者養成や講習会、レクリエーション大会等、職場に地域社会に広く日本人の心の中に、どうか定着してきた。しかし、戦後30年の歴史の中でも60年代の高度成長時代には、レクリエーションに変わる言葉として、レジャーとかバカンス語など或る意味では、レクリエーションに対する言葉として使われ、70年代には働きすぎ日本人への批判から、石油ショックによる成長のつまづきの様相をみせ、一方情報化社会による青少年の創造性や体力の問題等、生活態度の深刻な疑問が提示されて来た。そのような時代の変化の中でレクリエーションがどのような理念を持ちえたか、学校教育の中で実際にどのような理念にもとづいてレクリエーション教育がなされているかをさぐることは、今後の日本におけるレク

リエーション活動の基盤として重要な問題と考える。

I. 研究目的

本研究は以上の点から今回は特に、中・高校の保健体育の教科書の内容分析調査と、大学に於けるレクリエーション講義の実態を明らかにすることによって、今後のレクリエーション教育の一考察としたい。

II. 研究調査の内容

1. 中・高校の保健体育教科書の分析研究
2. 大学教育に於けるレクリエーション講義の調査

III. 研究調査の時期、対象、方法

1. 調査時期

昭和49年4月～6月、中・高校保健体育教科書

対象 中学校4社、(講談社、東京書籍、中学校4社、(講談社、東京書籍、教育出版)

高校8社、(講談社、教育出版、学研書籍、一橋出版、大原出版、第一学習社、中日本スポーツ研究会、大修館)

方法

中学校4社、高校8社に於ける教科書の項目別及びページ数、内容について調査検討した。

2. 調査時期

昭和48年4月～5月下旬

対象

全国総合大学、専門大学（理、工、医、薬、農、商、音、芸大）など体育専門大学は含まず、短期大学の合計383校を地方別に選り質問紙法により調査した。

回集総数 178校

総合大学 84校

専門大学 36校

短期大学 24校

不明大学 34校

地方別

北海道 8校 東北 12校

関東 41校 東海 17校

近畿 35校 中国 10校

四国 6校 九州 15校

無記名校 35校

IV. 結果と考察

調査Iについての結果

(イ) ページ数

中学校保健体育教科書の中でのレクリエーション関係の内容は全体の平均4.55%、高校では全体の平均6.91%である。

しかもレクリエーション内容としてとらえたものの中には、中学校の「社会生活の変化と運動」「産業の発達と運動」表2とか高校の「アマ・プロスポーツ」表4等、直接レクリエーションと関係のないものも関係項目として含めているのでそれらを削除すれば、もっと少ないパーセントになる。

教科書調査

中学校教科書(4社)

出版社名	頁数、%		全編		体育編		保健編		全編の中のRec		体育編の中のRec	
	頁	%	頁	%	頁	%	頁	%	頁	%	頁	%
講談社	230		70	30.43	153	66.52	8	3.47	8	11.42		
東京書籍	226		68	30.08	151	66.81	10	4.42	10	14.70		
教育出版	238		65	27.31	167	70.16	11	4.62	11	16.92		
学研書籍	228		67	29.38	159	69.73	13	5.70	13	19.40		
計	922		270		630		42		42			
4社の平均	230.5		68	29.28	157.5	68.32	10.5	4.55	10.5	15.55		

表 1

中学校教科書でレクリエーション項目として関係があると思われる内容

運動によるレクリエーションの現状

レクリエーションの意味(5行)

現代生活と運動の必要性

余暇の増大と善用

わが国のレクリエーション活動

地域社会とレクリエーション

社会生活の変化と運動

産業の発達と運動

31P6行

6P20行

2P9行

表 2

教科書調査

高等学校教科書(8社)

出版社名	頁数 %	全編		体育編		保健編		全編の中の Rec		体育編の中の Rec	
		(頁)	(%)	(頁)	(%)	(頁)	(%)	(頁)	(%)	(頁)	(%)
一橋出版		227		74	26.71	152	54.87	17	6.13	17	22.97
大原出版		248		76	30.64	171	68.95	23	9.27	23	30.26
教育出版		236		81	34.32	147	62.28	17	7.20	17	20.98
学研書籍		241		78	32.36	162	67.21	15	6.22	15	19.23
第一学習社		236		76	31.14	159	65.16	17	6.96	17	22.36
中日本スポーツ		244		77	31.55	159	65.16	13	5.32	13	16.88
大修館		243		67	27.57	168	69.13	14	5.76	14	20.89
講談社		249		80	32.12	160	64.25	17	6.82	17	21.25
計		1,924		609		1,278		133		133	
8社の平均		247.75		76.12	31.65	159.75	66.42	16.62	6.91	16.62	21.83

表 3

高等学校教科書でレクリエーション項目として関係があると思われる内容

現代生活と運動	7 P
都市化の現状と運動	
産業の形態の変化と運動	
職業生活と運動 (職場体育・レクリエーションの意義)	
余暇の増大と運動	
現代社会とスポーツ	5 P
スポーツの変遷	
現代スポーツの発展(動行・特性)	
スポーツの定義(概念)	10 P
アマ・プロスポーツ	
わが国の体育レクリエーション	9 P
法律と行政機構(制度)と問題	
組織団体 (公共・職場・営利・学校)の現状と問題	
各国の概況(世界の体育・レクリエーション)	
レクリエーションの現状(制度)	
今後の体育・レクリエーションの問題	
スポーツのレクリエーション化	
野外スポーツの隆盛	

※ ページ・行数については教科書であつた項目の平均

表 4

(四) 内容

内容については、生活との関係、社会との関係、行政との関係といったようにまとめた。全体を通して感じられることは、社会生活と運動(中学)、社会生活と体育(高校)という運動、スポーツ、社会体育といった関連の中でレクリエーションの問題を取り扱われていると思える。またレクリエーションの意味とか、意義については、あまりくわしくふれていない。

調査1に関する考察

保健体育の教科書であるのでレクリエーションのとらえ方も当然「運動・体育・スポーツ」といった立場で取り扱かわれると思われるが、それにしても「レクリエーションの意味」(表2)のように、もっと詳しく書かれていてもよいのではないか、ページ数にしても保健理論と比較してあまりにも少なすぎる。

以上の点から考えられることは、レクリエーション=スポーツ、レクリエーション=運動といった、レクリエーションに対するイメージの

問題である。イメージの研究は高橋和敏氏や数人の研究があるが、表5は東洋大学短期大学生の調査を表わしたものである。

これによってもやはり種目反応の傾向はまぬがれない。しかし下位ではあるが「青空」とか「余暇を過ごす」「生活にうるおいを与える」「命の洗濯」「人間」などのレクリエーションの心理をつかんでいると思えるものもでてきている。

レクリエーションがイメージとして旅行、運動、スポーツ、種目反応が圧倒的なのは中・高校、教科書の影響なども考えられる。

レクリエーションの意味あいとしての「生活にうるおいを与える」「余暇の過ごし方」とか「個人としての生き方」や「個と家族」「個と社会」等、運動、スポーツだけでなく広い意味での余暇活動としてとらえる必要があろう。また言葉のもつ概念規定とか、レクリエーション活動の意味あいや、理念等についても、もう少しふれる必要がなからうか。

レクリエーションという言葉からくるイメージ調査

解答者数 195名 (解答数は制限せず)

対象 東洋大学短期大学生(S47年調査実施)

順位	種目	人数	順位	種目	人数	順位	種目	人数	順位	種目	人数
1	旅行	69	8	ピクニック	25	16	生活にうるおいを与える	4	16	マージャン	4
2	スポーツ	50	9	ボーリング	19	位	命の洗濯	人	位	家庭	人
3	遊び	41	10	青空	18	以	ドライブ	人	以	つり	人
4	楽しみ	36	11	運動	16	下	笑	1	下	散歩	1
5	バレーボール	32	12	ゲーム	12		趣味	人		人間	人
6	ハイキング	29	13	人の和	8		若さ			読書	
6	フォークダンス	29	14	余暇を過ごす	6		ゆとり			ホーム・ルーム	
7	自然	26	15	団体でやる	5		ゴルフ			軽スポーツ	
							憩い			その他	

表 5

表6はレジャーについてのイメージであるが、「上野駅の時刻表」といった退廃的なイメージむしろレクリエーションに比べ「お金を使う」がでてきている。
とか「人の波」「疲労」「余暇のうめあわせ」

レジャーという言葉からくるイメージ調査

解答者数 195名（解答数は制限せず）

対象 東洋大学短期大学生（S47年調査実施）

順位	種目	人数	順位	種目	人数	順位	種目	人数	順位	種目	人数
1	旅行	70	9	人の波	10	13	家庭サービス	4	13	ブルジョア	4
2	ドライブ	46	10	疲労	8	位以下	ショッピング	人	位以下	レンタカー	人
3	お金を使う	24	11	楽しみ	6	以下	マージャン	1	以下	くだらない	1
4	遊び	23	11	ハイキング	6		パチンコ	人		上野駅時刻表	人
5	ボーリング	17	11	個人的な遊び	6		遠足			会話・	
6	スポーツ	14	11	暇	6		日曜日			自己満足	
7	ゴルフ	12	11	つり	6		余暇の			大人・キャンプ	
8	スキー・スケート	11	12	青空	5		うめあわせ			芝生	
8	休息	11	12	ストレス解消	5		田舎			その他	
							競馬, 競輪				

表 6

調査2に関する結果

レクリエーション講義を行なっている大学
87校、49%、行なっていない大学91校で
51%と約半数弱が何らかの方法でレクリエーション講義を行なっていると思える。

1A 保健体育理論の講座の中にレクリエーション講義を行なっていますか。行なっていませんか。

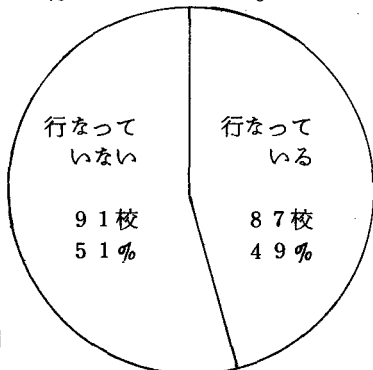


図1

しかし、時間的にみると2時間～4時間が多く70%を示している。

☆ 保健体育理論の中にRecreation 講義を含めている大学の時間数については2時間～4時間の間が一番多く見られた。

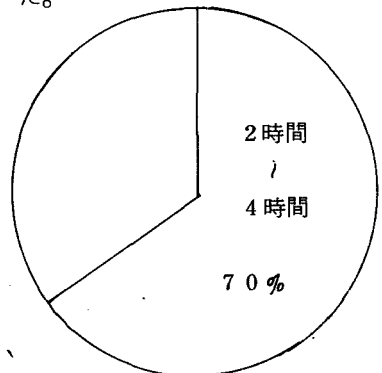


図2

内容については、表5のようにさまざまな内容を含んでいると思える。

1-A-C Recreation 講義のテーマ・内容

- ① Recreation の意義…………… 29校
- ② Recreation の概論…………… 21校
- ③ 現代社会と余暇…………… 12校
- ④ 体育社会学の中の Rec. …… 11校
- ⑤ 余暇とRecreation …… 11校
- ⑥ Recreation 活動と方法… 11校
- ⑦ 体育スポーツとRecreation … 10校
- ⑧ Recreation 対策と問題点 … 5校
- ⑨ Recreation 指導(リーダーのあり方)…………… 4校
- ⑩ 職場とRecreation …… 4校

その他にも多くのテーマ・内容があります。Recreation の管理, 行政, 生活と Recreation, Recreation の実際, Recreation と遊戯, 野外活動(キャンプ), Recreation の実態と現況, Recreation と Leisure, 地域社会と Recreation, 労働と遊び Recreation の社会学的立場, Recreation の心理学的立場, 余暇時間と身体的立場 Recreation 施設や機関の訪問

行っていない大学の中で必要を感じていると解答した大学は62校の68%であり、必要を感じないの解答は29校の32%である。

1B 行っていない場合、必要性を感じますか。感じませんか。

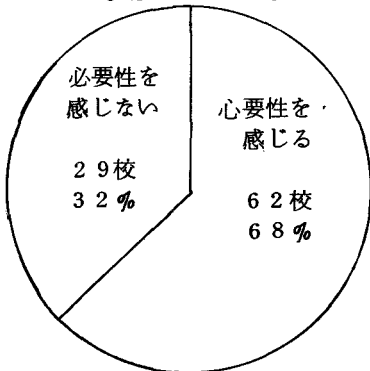


図3

その理由としては表6に示している。

1-B-a 保健体育理論の講座の中にレクリエーション講義を行っていない場合必要性を感じますかと言う質問に対する回答理由としまして。

- ① 必要と思うので現在検討中…………… 7校
- ② 時間的に許せば行ないたい…………… 6校
- ③ 必要と思うが教員不足、大学の事情で行えない…………… 6校
- ④ 必要と思うが現在行っていない…………… 5校
- ⑤ 健全な生活を営む上で大切…………… 5校
- ⑥ 余暇の増大にもなり多様性は現代に於ては必要…………… 4校
- ⑦ 余暇の善用のために必要…………… 4校
- ⑧ 講義の一部としては必要…………… 3校

1-B-b 必要性を感じませんに対する質問の回答理由としましては。

- ① 授業の中で関連性を持って話している…………… 3校
- ② 他の分野に中心を置いている…………… 2校
- ③ 授業としてはあまり必要性を感じない…………… 2校
- ④ 時間的に余裕がない…………… 2校

表7

他の学部、学科のカリキュラムやゼミのテーマとして扱っている大学は19校で11%程度で、しかも特殊大学や学部、専門大学でおこなわれている。

2. 他の学部、学科のカリキュラム又はゼミのテーマとしてレクリエーション関係の講座を設けているところがありますか。

- 教員養成科…………… 8校
- 独立した科目…………… 2校
- 社会教育科…………… 2校
- 教育学科…………… 1校
- 社会福祉学科…………… 3校
- 野外教育…………… 1校
- 不明だが行なっている…………… 2校

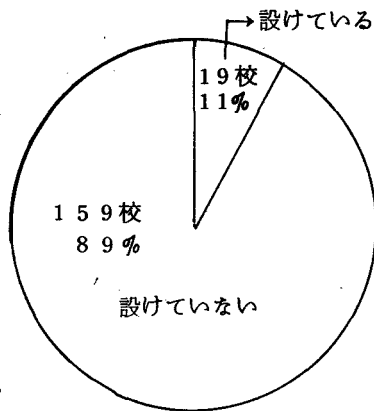


図4

調査2に関する考察

多くの大学がその必要性を感じていると思われるが、その半数以上がおこなっていないのが現状で、おこなっている大学でも、2時間～4時間程度で特殊な大学をのぞいてほとんどが体育教科内でとらえられている。

即ち、保健体育理論の中で2～3時間をレクリエーション内容を含めて話されていると想像される。内容的にも講義として確立されていないのが現状で、今後学校教育の中にかどのよう位置づけてゆくかを考える必要があろう。

あとがき

産業社会にあつては、余暇の問題やレクリエーションの問題は、時代が変わろうとも労働との関連において生まれてくる。

その意味からレクリエーションは、生産活動の半面として重要な役割を果たすことは、今日までの歴史が示した明白な事実である。

このような意味において、レクリエーションに、もしも理念というものがあるならば、レクリエーション教育は重要な教育として、考えなければならない。

戦後の我が国は「新しい日本国憲法」を確定し、その理念実現のために「教育基本法」を制定した。

新しい教育の理念が教育基本法に書かれている第1条(教育の目的)「教育は人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身共に健康な国民の育成を期して行なわれなければならない」。簡単にいうならば、「個人の価値を重んじた豊かな人間性の育成にある」とも言えよう。

以上の点からレクリエーション教育の理念もまた豊かな人間性の育成にあると言えよう。戦後30年の歩みの中で理念はもとより制度の上でも一つの岐路に立っていると言える。制度は理念を体現する形態であり、制度が大きく変えられることは、理念が全面的に否定されることにもなる。その意味でも理念と制度は、切っても切りはなせない関係にあると言えよう。

例えていうならば、戦前の理念は「天皇主権」「絶対主義」「軍国主義」といわれるものであつて、レクリエーションは、そのための生産としての意味を強め、個人の主体性は意義をもたなかったと言える。また今日に於いての後期中等教育における科目偏重や受験制度で学校よりも塾中心によって自主性や創造性の芽をつまれば体力を失いつつある、青少年の姿を見るに、理念と制度のくいちがいを感ぜざるをえない。

これはまさにレクリエーション教育以前の問題である。レクリエーション教育が豊かな人間性を目ざしているとするればこのような制度上の問題をまずチェックする必要がある。レクリエーション教育は他の教科の反面をになうものとして将来社会人として立ち、新しい時代をになうべき若者達の学校教育に於けるレクリエーションの位置づけはもつとも重要な課題といわなければならない。

戦後30年、我が国に於けるレクリエーション

ン活動はめざましいものがある。

レクリエーション運動は現在まで広い視野に立って働きかけをしてきたとは言え、今一度これまでの歩みを振り返りながら、確たる新たな運動の構想を打ち立てる必要を感じる。ここに具体的提言をいわせてもらえるなら、まず不変的レクリエーションの理念の追究と学校教育と制度との関係、行政との関係の研究が一層なされることを切に望む。

そのためにレクリエーション学会と平行に研究会を創設することも必要ではなからうか。

参考文献

- 大学体育指導者研究会報告書Ⅱ
中・高校保健体育教科書(12社49年版)
レクリエーション研究(1~5号)
文部省「中・高校指導書」東山書房
日本レクリエーション協会
「日本レクリエーション協会二十年史」
レクリエーションの構造論(経済企画庁)
レクリエーションの文化史(岸野雄三他書)
生涯体育論(前川峯雄著)
青年の条件「期待される人間像」への疑問
(佐古純一郎・隅谷三喜男・室俊司共書)
遊びと人間(カイヨワ)
ホモ・ルーデンス(ホイジンガ)